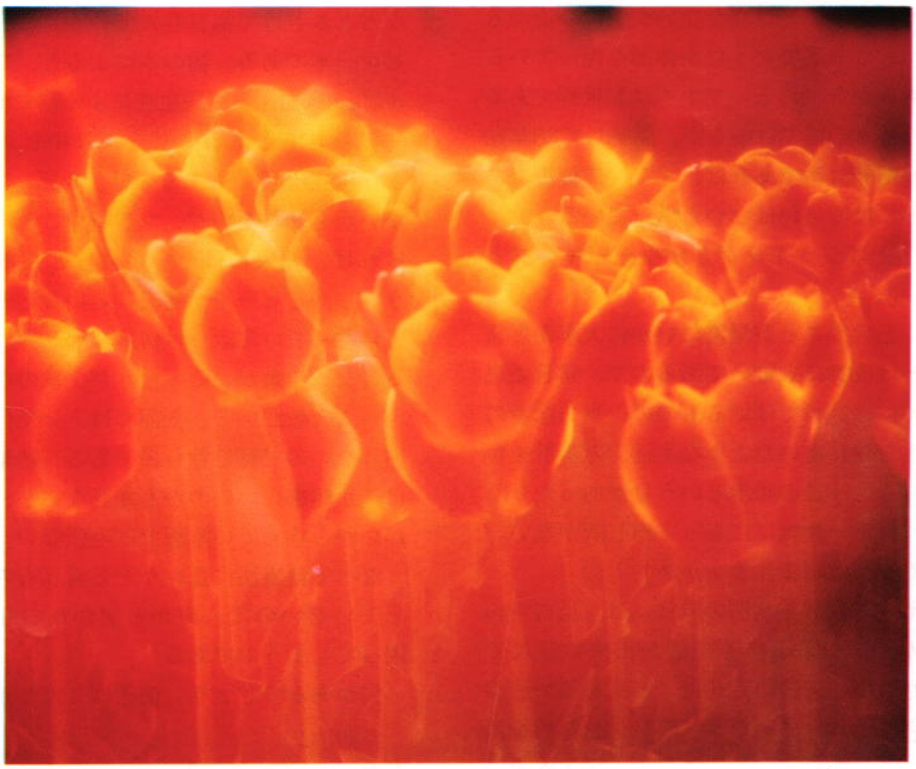
西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第341号　平成13年５月



『チューリップ』田村啓彦

目　次

頁

1）私の健康法　松原貞一…２
2）１次救急と医師会　片平潤一…３
3）平日夜間、休日診療体制について　広報部…４
4）レセプトＱ＆Ａ　広報部…６
5）文芸随筆諸事百般　イワン・デニーソビッチの一日　込田茂夫…８
6）同好会短信　写真展のお知らせ　写真部…９
川崎先生傘寿記念ゴルフコンペ　ゴルフ部…９
7）各部だより　学術インフォメーション　学術部…11
8）平成12年度第２回定時総会　広報部…12
9）理事会報告　広報部…13
10）会員通知・医師会の動き　事務局…17
11）表紙のことば　田村啓彦…18
12）あとがき　石井好明…18
13）お知らせ　事務局…19

http://www.hkr.ne.jp/ishikai/

『私の健康法』

松　原　貞　一

「先生　お若いですネ…、なにかいい健康法でもあるんですか」

と患者さんに聞かれることがある。古希を迎えて、白髪こそ目立たないが頭はつるつる天、バーコードでどうにか体面を保っている位であるから、お若いですネはお世辞であることは重々心得てはいるが、開業して38年殆ど無遅刻無欠席であれば、マアマア健康であることには間違いはないと思っている。

「たとえばジョギングとかウォーキングとか…」

歩くと言うことが健康にいかに大事かと言うことは成書にも書いてあるので、常日頃患者さんには勧めてはいるものの、当方医者の不養生を絵に書いたような生活、万歩計を付けてみると一日300歩という日があったりして、言行不一致誠ににもって申し訳がない。

「酒や煙草は嗜まれますか？」

昭和30年代の勤務医の時代には、世の中おおらかで誰気兼ね無く喫煙が出来る時代であったので、若造のくせにくわえ煙草で聴診器を当てたりしていたが、院長にお咎めを頂戴することも無かった。それでも少々度が過ぎたと見えて、昭和50年頃心房細動を起こしたこともあって、まだ子育て真っ最中でもあったので、これを機会に煙草とは縁を切った。「パパ偉いわねぇ。よく止められたと思って感心しちゃう。」と娘にお誉め言葉を頂戴することがあるが、このところ酒の席などではホステスにチョット一本などと言って貰い煙草をきめこんだりしているので、少々肩身が狭い。子育ても終わり責任も無くなったので、そろそろ喫んでもいいかななどと思ったりしているところなど、我ながら志の低くなんとも情けない。

酒は元来強い方ではない。強いほうではないが、嫌いではない。どちらかと言えば好きなほうであるので、

「お酒ですか、酒は月水金と火木土、日曜日は週に一度しか呑みません」

などとふざけて毎日呑んでいる。ビールの大ビン一本である。物の本によると、アルコール20mlは血圧、高脂血症によく癌や痴呆の予防にも効くとある。ビールは中ビン一本が20mlに相当するとあるので、大ビンでは少々多いかも知れないが、マア堅いことを言わなければ、健康にはいいと言うところであろう。しかしビールが健康にいいなどと思って毎日呑んでいる訳では勿論ない。男は外に出ると七人の敵がいると言うが、家の中にももう一人大敵がいて、素面ではトテモ付き合い切れないので毎日呑むのである。結果としては些か健康にいいのかも知れないが、健康にいいから呑んでいる訳では毛頭ない。

なべて健康法に良いなどと言うものは何もしていないので、何かと聞かれても本当に困ってしまうのである。

「何かあるでしょう。例えばヨガとかゴルフとか…」

と畳み掛けて来るが、ヨガなどとんでも無い。確かにゴルフはやっている。やってはいるが余りにも成績が悪いので、趣味の項には書かないようにしている。書くとすぐハンディはなどと聞かれそうな気がして、それが怖くて書けないのである。勿論健康にいいなどと思ってやってる訳ではない。好きだからやっているのであり、楽しいから練習場にも通っているのである。週に8回も通ったりしているので、結構練習はしている方である。ゴルフに限って独りでする練習は変な癖を伸ばすだけで、決して上達することは無いと聞いてはいるが、世の中には「若しかすると」ということも無いではないのではないかと、神に願いを掛けながら目立たぬよう密かに

通っている。健康の為に練習場に行っている訳では勿論ないが、行けば体も動かし運動にもなる。些かの運動療法にはなっているのかも知れない。

しかし近頃は平均寿命に近くなってきたので、今更健康法でもあるまいと思うようにもなってきた。有終の美と言い、終わり良ければ総て良しとも言う。良き人生は良き死をもって完結するのである。既に峠を超え、残りの人生指折り数える頃となれば、呆けず寝込まず死ぬまで健康でいたいと思い、元気で死にたいと思うが老人の願いであり、その為の健康法を密かに考えたりもするのである。

心と肉体は車の両輪と言い、人は心より老いるとも言う。古希も迎えて動脈硬化が来てしまった血管に健康を望むのは無理であるとしても、経験を積んだ心に平安を願うのは、全く無理というものでもあるまい。その昔、孔子という人がのたまうたそうである。

『七十にして矩を超えず』

古希を過ぎるほどになれば、心の欲するままに行動しても道理に外れることはないという有り難いお言葉である。さすれば七十を過ぎて思うことは、これからは心の欲しない嫌なことは一切しないということ。心が欲する好きなこと楽しいことはなんでもする。例え家人に嫌な顔をされようともである。それが健康にプラスになれば結構なこと、マイナスになっても悔やむことは無い。

1次救急と医師会

片　平　潤　一

昨年、青梅市から青梅市医師会に休日診療所を移転してほしいという話がありました。今は健康センター内にあるのですが、総合病院のすぐ近くに移ってほしいというのです。その理由は健康センターが手狭になっているということと、病院のすぐ側の方が患者さんにとって便利だということです。しかし休日に健康センターが混雑して診療ができないなどということはないし、ほとんどの患者さんが車で来院しますので現在の場所で不便ではないのです。それで当初は医師会も理由がわからないし、また休日診療所が出来た時も医師会の先輩方が都に掛け合って都有地の払い下げを受けたということもあり、賛成出来ないということになりました。そんな理由じゃないでしょうと聞いても市のだれもが本当の事を言いません。しかし、本当はわかっています。総合病院の休日夜間診療が手一杯なので医師会に協力してほしいということのようです。何故最初から本当の理由をあげて協力してほしいといわないのかわかりませんが、最近の総合病院便りにも小児科が休日夜間診療でパンク寸前だから医師会に期待していると書いてありました。当事者同士が腹の探り合いをしているようでなんともへんです。ごく最近の新聞にも東京の小児科医が減少して小児救急をする所が少なくなり、やっているところはどこも大混雑、つまり医者はギブアップ状態だとありました。青梅でも同じなのです。現在休日診療所に協力する医師会の先生は多くありません。それなのに総合病院の下請けをしてさらに休日診療が増えたらアウトになるという意見もありましたが、結局今後の青梅の休日夜間診療体制を支えていく必要性から青梅市医師会が協力することになりました。しかし、ゆくゆくは1次救急は平日準夜、夜間、休日すべてで医師会でみてほしいというのが総合病院の本音でしょうか。実際に都心の医師会でも時間を限ってそのような協力をしている所もあるようです。青梅市医師会も将来はある程度まではこれに近い形で協力せざるを得ないだろうというのが現

在休日診療をしている先生方の大方の意見です。しかし、内科系を標榜していながら休日診療はしない先生方が今後は協力戴けるのかというと見通しは暗いでしょう。まして現在青梅市では小児科医はごくわずかですし、子供はみないという先生も大勢います。休日診療所に子供だけでも1日60人もくることを考えると実質的に青梅市の先生だけでまかなうのは不可能でしょう。さて、西多摩地区は医療圏としては1つです。都も救急体制としてはそのように考えていると思われます。人口からも地理的、歴史的にもそうですし、救急病院が圧倒的に少ないということもあります。まして小児の救急は青梅市立総合病院のみということもあります。羽村市でも夜間救急診療所を運営なさっていると聞きますが、どのような状況なのでしょうか。青梅市立総合病院の入院患者には青梅市民以外も何割かいることもあり、1次救急の体制として西多摩地域全体として考えていくことが必要なのではないでしょうか。確かに自治体が違うので困難な点もあるでしょうが、車社会で患者さんは自由に移動します。医療関係者が連携し合っていくことで補い合う面、プラスの面が出てくると思われます。まして小児救急ではそうでしょう。

平日夜間、休日診療体制について

片平会員からの投稿を受けて、広報部として少し調べてみました。休日診療体制については、平成5年に松原会長からの要請により救急休日診療委員会で検討され、中村武委員長より答申がなされました。詳細は会報の平成5年5月号、6月号、8月号をお読み下さい。

西多摩医師会には8市町村が含まれている関係で、市町村事業である準夜診療は各市町村から委託を受けて各地区会単位で行っているのが現状です。したがって各地区で行っている休日診療体制は各自治体と地区会の事情もあり同一ではありません。その中で唯一平日準夜を行っているのが羽村市です。片平会員が触れているように各地区会も今後は平日準夜を実施する方向で検討していかなければならないでしょう。実施するにあたってのネックは、参加する医師の人数だと思います。そこで内科を標榜している医療機関には全員参加していただく必要があります。会員が皆一様に何らかの負担をしていくと、医師会活動はもっと盛り上がってくるでしょう。医師会の主な使命は地域における保健、医療、福祉の推進にあります。そして地域住民も同様のことをわれわれに求めているはずです。このような時代が必ずくるのがわかっているのなら、自治体からの要請があればすぐにでも応じて医師会の存在を市民にアピールすべきだと思います。

休日診療をしていると耳鼻科、眼科の患者さんが必ず1～2人います。幸い緊急性はない患者さんが多いのですが、たまに杏林や埼玉医大を紹介しています。東京都耳鼻科医会および眼科医会からの休日診療をしている医療機関が張り出されていますが、杏林や埼玉医大よりさらに遠方のものばかりです。西多摩医師会の耳鼻科、眼科の会員に同医会の休日診療に参加していただけると助かりますがいかがでしょうか。

今後、福生病院の動向によっては変わってくるかもしれませんが、現在実施されている西多摩医師会6地区の平日、休日診療体制は下記の通りです。

各地区の平日準夜、休日（９時～５時）および休日準夜診療体制

	瑞穂	羽村	福生	青梅	あきる野	日の出
平日準夜（７時～11時）	なし	実施	なし	なし	なし	なし
日曜（９時～５時）	なし	実施	実施	実施	実施	なし
日曜準夜	（第１、５日曜羽村市、第２、３、４日曜福生市）			実施（５時～10時）	実施（５時～10時）	なし
祝祭日（９時～５時）	実施	実施	実施	実施	実施	実施
祝祭日準夜	（　原則として瑞穂　）			実施（５時～10時）	実施（５時～10時）	なし
５月連休準夜	（瑞穂、羽村、福生で輪番）			実施（５時～10時）	実施（５時～10時）	なし
年末年始（９時～５時）	実施（１２月２９日　～　１月３日）			実施	実施	実施（12／31のみ）
年末年始準夜	（瑞穂、羽村、福生で輪番）			実施（５時～10時）	実施（５時～10時）	なし
当番医師	全員（除高齢者）	有志非会員（除高齢者）	全員	有志	全員	全員
診療場所	各診療所	平日準夜、休日準夜はセンター休日(9時～５時）は各診療所	センター	センター	各診療所	各診療所

報酬は各地区ともに金額には多少の違いがあるものの自治体からの委託料＋保険診療報酬

＊瑞穂の日曜（９時～５時）は石畑診療所が通常の診療時間として開設しています。

＊青梅の大門診療所は連日24時間開設しています。

（文責：森本　晉）

レセプト Q＆A

広　報　部

最近の診療報酬減点通知の中からいくつかを掲載します。この中には、こちらのうっかりミス、理解に苦しむもの、医学的には当然のことなのにと思うようなことがあります。誰が審査をしているのかと憤りを感じることもたびたびです。毎月わずかの点数のために再審査請求するエネルギーがあったらほかに向けたいと思うのは当然です。しかし、これらの減点がすべてマスコミの報道では不正請求とされるとしたらたまりません。会員の皆様、病名もれのないように、また添付文書をよく読んで拡大解釈しないように気をつけましょう。

1．ゾビラックス軟膏5％ 5ｇ

帯状疱疹に使用し、減点されました。適応症は、単純疱疹です。単純なまちがいでした。すぐに減点通知がこないので、訂正する間もなく3ヵ月後の15ｇと一度に両方減点されました。このようなものは、たびたびあります。支払基金の通知が遅いのが原因ですから、最初だけ減点して2回目は、返戻にしても良いのではないかと思います。

2．クラリシッド200mg 3錠→2錠　44×5→29×5（2回）

急性気管支炎に使用。うっかりミスです。抗生剤を1日3回投与の癖がついていたもので。最近は1日1回の抗生剤も出たため注意が必要です。

3．ルリッド2錠　23×16→4

急性上気道炎に16日投与した。添付文書には効果がなければ中止するように書いてあるが、効果があったため16日投与した。それを4日に減点してきたのは、どのような理由からか。理解に苦しむ。メーカーに問い合わせましたが、明確な回答はえられませんでした。

4．セフゾンカプセル3cap　34×8→0

再審査内容は、病名よりとのこと。病名は急性気管支炎であったが、開始日が11年1月12日であった。減点対象は、11年11月分、12月分であった。開始日に問題があったと思われる。他に慢性疾患があり、毎月かぜをひいてきたので、つい開始日を変更しなかったため。10月までよく通ったと思う。

5．アルブミン注25％ 50ml　774×4→117×4

再審査内容は病名よりとのことであった。病名は肝硬変、低蛋白血症で症状詳記もしてアルブミンの値も記載してあるのに減点された。この患者さんは過去にも何回か同じ減点の対象になった。その都度再審査請求をして復活している。今回も再審査請求をするつもりでいる。誰が審査しているのか疑問におもう。病名の低蛋白血症を低アルブミン血症に変更し、今後もアルブミンを使い続けるつもりでいる。

6．アレジオン1錠　1T×30→14日

アレジオンは喘息病名の時のみ長期投与が可能とのことであった。明らかに当方の不注意であった。時節柄、患者さんの希望に気軽に応じてしまったのがいけなかった。このようなことは、漢方薬でも同様である。

7．ダレンカプセル1mg　4c　26×28→0

乾癬の患者の強いかゆみに使ったもので、明らかに適応外使用。適応があると思ったうっかりミス。

8．ハルナール0.2mg　2c→1c　78×14→55×14

前立腺肥大の患者に使用。能書によればハルナールは通常1カプセルで症状により増減出来る

とある。一般に2カプセルでも削られないが、この患者の健保組合に限って削る。支払基金もこれを認める。このようにいったん支払基金で認めても健保組合の申し出で簡単に削り、しかも再審査請求を認めないことはよくある。

9．ヒアルロン酸×1→0　−300

ヒアルロン酸は慢性肝炎の経過観察の時に使うとある。この患者は肝硬変への移行が疑われ、慢性肝炎から変更した途端に査定された。ヒアルロン酸は肝硬変では130以上になるとされており、その経過をみようとしたものだが、「慢性肝炎の」とあるから駄目ということだろう。このように医学的にどうこうという問題では無く、削る理由を探しているところに文言を利用することは良くある。

10．メバロチン10mg　1T　57×28→40×28

高脂血症で慢性にみている患者だが、どうしたのか長い間に病名が消えているのに気付かず、1年半くらいしてから健保組合に気付かれ、毎月査定され続けているもの。支払基金では通しているが、このように忘れた頃に査定し、ずっと削ることはよくある。はじめから支払基金が指摘してくれれば毎月4760円損をしないで済んだのにと思うが、高い授業料となった。

11．ウルソ（100）6→3T　80→75×28

慢性肝炎の患者に投与したもの。ウルソは能書では慢性肝炎には3錠投与となっている。しかし、現在慢性肝炎に使う場合6錠投与が勧められ、さらに9錠とグリチロンの併用が良いという論文も出ている。これも支払基金では通っているが、健保組合の申し出で査定されている。通常は通るのだが、健保組合で能書にあるのだからと粘ると、認められるようだ。「医療の世界では」といっても普通は通用しない。

12．RLPコレステロール　349×1→29×1

RLPコレステロールは高脂血症の病名が無いと通らない。うっかり病名を書き忘れたもの。逆に病名さえあれば、3月に1回なら必ず通る。病名主義の悪しき弊害。

13．メイラックス2mg1錠　13×28→13×14と8×14

神経症に対して投与したものだが、28日投与を14日投与に査定された。メイラックスは過敏性腸症候群による不安などには28日投与が認められている。だから28日は駄目ということ。このようによく能書を見ないと、神経症だから28日投与は良いだろうと勘違いしてしまう。4週間投与は向こうも削る時のポイントにしているから要注意。

14．ゾビラックス200　20T　755×8→755×7

帯状疱疹には絶対に7日分しか認められない。能書には7日まで投与で効果が無かったら中止と書いてあるが、効果があるからもう少し使いたいと思っても駄目。これは症状詳記をして再審査請求しても通らない。患者本位で無い査定の典型。

15．イントロンA 1000　1瓶→0　2482×11→0

慢性肝炎にインターフェロンを投与。この患者は著効例だが止めるとHCV-RNA-PCRがでてくるので6か月よりさらにもう少し使いたいと、症状詳記を十分にして延長投与したもの。支払基金では通ったが、8か月後に健保組合からの申し出で査定された。2か月間だったので支払基金の段階で査定されれば1か月分で済んだものをと悔やまれた。このように症状詳記すれば、患者のために通してくれるだろうと思いのは甘い。

16．ホスフラン（20）4A→2A　−18

胃腸炎で摂食不能となり脱水のひどい老人女性に点滴を施行。その際ビタ剤を加える。通常はこの量で通っているが、突然の思い付きのように査定。このように普段は通るのに突然原因不明に査定されるのはよくある。この場合は健保組合からの申し出によるが、支払基金レベルでもそうである。このような場合でも再審査請求が通るとは限らない。

文芸随筆諸事百般

イワン・デニーソビッチの一日

（羽村市医師会定時総会ならびに懇親会参加の記）

込　田　茂　夫

さる４月18日割烹「かつら」において羽村市医師会定期総会および懇親会が開かれた。あいにく朝から風邪気味で、その上昼休みは検診で400名の中学生の「みみはなのど」を診るはめになっていた。まさかこれを変更するわけにはいかなかった。夜の宴会はかんべんさせてもらおうかなという思いがちらと頭をかすめる。でも会費の一万円がもったいないか。午前の診療を終えるや飯を掻きこんで、あたふたと中学に乗りつけた。今年もピアスの男子生徒や胸のボタンをはだけた女子生徒もいたが、バブルの頃に比べればここ数年はかわいいもんだ。夢中でやって、額の汗を拭うと終わりだった。養護の先生に今年の生徒は割りとキチンとしてますねと言うと、「そうですかぁ？」の返事。

中学から戻るとすぐに午後の診療開始。３分の遅刻か！午後の診療も飛ばして７時半終了。「かつら」まで運動不足の足で走って15分の遅刻。既に12年度の事業報告が終了して、12年度の会計報告の質疑に入っていた。４月に入ってから徴収した会費を12年度に入れたのが帳簿上まずいということらしい。いいんだって、そんなことは。羽村医師会にごまかそうなんて人は一人もいないんだから。きちんと帳簿上整理することで決着。一同拍手。

14名、約半数の会員の出席しかなくて残念であったが、懇親会に移ると上座側の松田先生あたりからにぎやかになりだした。聞けば松原先生担当の羽村高校の検診を堤先生と一緒に昼手伝い、その際松原先生の計らいで美人の看護婦さんを補助に回してもらったのだそうだ。それで元気なんじゃないかと冷やかされている。胸部の聴診箇所は定点４箇所なのに女子生徒はブラウスの前を少ししか開けてくれないので、一箇所で不整脈の有無くらいしか診察できないと背広の前を引っ張って実演しこぼされる。耳くそ鼻くそみるよりいいじゃないですか。会報の原稿依頼を森本編集長から頼んでもらっていたが、従業員の結婚式のスピーチ予定もあって忙しいらしい。それでも８月には「内田康夫」を書くよと約束させてしまった。揉んだ肩が薄くてちょって悪いことをしたかなと反省。

いきなり松原先生から「スターリングラード」はよかった。○○○シーンが良かったの発言。なんと言うことだ。封切されてまだ４日目の映画なのに。日曜日あの会場のどこかで多分一緒だったのだろう。これは僕と松原先生しか盛り上がらなかった。隣で飲んでいた滝浦文明先生は酒好きに違いない。富山でホタルイカを捕らえて下宿で食べていたという学生時代の話を聞い

た。詳しくは来月号の当紙面の新人紹介欄に掲載予定だ。横内先生に老人医療のコツを聞かせてもらって、山田学先生の音楽の話を聞いているうちに眠くなってきた。お開きは10時半になっていたが、その時には風邪はフルーティーな吟醸酒のせいか治っていた。玄関口で酔って椅子に座り込んでいる松田先生の姿を見て、充分幸せな気分になった。ふと診療所をラーゲリ（強制収容所）、仕事を強制労働と見立てると、僕も松田先生、松原先生、堤先生も、今日の一日はソルジェニーツィンの小説「イワン・デニーソビッチの一日」だったななどというとんでもない空想が酔った頭に浮かんでくるのだった。

幹事の稲垣先生、会計の奥村先生ご苦労様でした。こんな幸福な一日を持てたのは、神様の思し召しでさあ。いや、真鍋会長、横田副会長のおかげです。ありがとう。おやすみなさい。

同好会短信

写真部写真展のお知らせ

6月26日（火）より7月2日（月）まで羽村市コミュニティーセンターにて恒例の写真部写真展を開催致します。

作品のジャンルを問いません。奮って御参加下さい。

（田村啓彦）

川崎先生 傘寿記念ゴルフコンペ

去る3月25日、立川国際カントリー倶楽部草花コースで、川崎先生の傘寿記念ゴルフコンペが開催されました。当日は微風曇天で後半には小雨がパラつきましたが、むしろ花粉が飛散せず、暑からず寒からずの花粉症患者には最良のゴルフ日和でした。問題は目の極めて荒いコーライグリーンで、3パット続出のなか、別表の如くドライバーを替えて絶好調の高水先生がグロス76、ネット72.4という驚異的な好成績で前回に続いて連続優勝されました。プレー終了後のパーティーでは参加者全員より、傘寿を迎えられ増々お元気な川崎先生に、人気ナンバーワンのオデッセイのパターと、往年の飛距離が蘇り、バイアグラボールとして全米で評判のゴルフボールが贈呈されました。

次回のコンペは6月3日（日）東京バーディークラブにて開催を予定致しております。奮って御参加下さい。

（田村啓彦）

順位	氏名	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット	
優勝	高水　松夫	37	39	76	3.6	72.4	ドラコン賞、ニアピン賞 ベスグロ賞、バーディ賞
準優勝	青山　彰	47	48	95	19.2	75.8	
3 位	田村　啓彦	52	48	100	24.0	76.0	
4 位	宮川　栄次	47	42	89	12.0	77.0	ドラコン賞
5 位	江本　浩	41	41	82	4.8	77.2	ドラコン賞 ニアピン賞
6 位	森本　晉	50	52	102	22.8	79.2	
7 位	山本　修	51	56	107	27.6	79.4	
8 位	松原　貞一	46	48	94	14.4	79.6	
9 位	田坂　哲哉	52	47	99	19.2	79.8	ニアピン賞
10 位	祁答院尚嗣	50	47	97	16.8	80.2	ドラコン賞
10 位	内山　大	44	53	97	16.8	80.2	バーディ賞
12 位	河内　泰彦	46	55	101	18.0	83.0	
13 位	堤　次雄	59	52	111	27.6	83.4	
14 位	川崎健一郎	58	51	109	25.2	83.8	
15 位	内山　淳子	55	60	115	30.0	85.0	
16 位	百瀬真一郎	55	56	111	25.2	85.8	ニアピン賞
17 位	三浦　剛士	62	64	126	36.0	90.0	
18 位	中田　芳孝	62	54	116	24.0	92.0	ＢＢ賞
B. M.	川島　雅之	64	67	131	36.0	95.0	

各部だより

学術部 Information

≪5月≫

西多摩医師会学術講演会のご案内

1 日　時：平成13年5月16日（水）
場　所：西多摩医師会館
演　題：『肺気腫の合併症と治療』
青梅市立総合病院呼吸器科　部長　大　玉　信　一　先生

2 日　時：平成13年5月24日（木）
場　所：西多摩医師会館
演　題：『うつ病と薬物治療』
日本大学医学部付属練馬光が丘病院精神神経科　助教授　渡　辺　登　先生

《学術講演会要旨》

平成13年4月11日（水）

演題：「仮面うつ病　－隠された心の危機－」

講師：国家公務員共済組合連合会　九段坂病院　心療内科部長　山　岡　昌　之　先生

心療内科を受診する患者さんの中には、食欲不振・腹痛・下痢・手足のシビレ・腰痛・めまい などの身体の症状に長年悩まされ、内科・整形外科・婦人科などを受診し、いろいろな検査を受けたが原因不明で、病院を転々としている人が数多く認められます。この様な場合、症状の背後にうつ病が隠されている事がよくあります。

うつ病は「気分が憂鬱になり、元気がなくなる心の病気」であることを、多くの人は漠然と理解しています。しかし、うつ病の中には、精神症状が目立たず、身体症状が前面に出て、一見すると身体の病気の様にしか見えないものがあります。

身体の症状が前面に出るうつ病は、身体の病気という仮面をかぶっている様に見える事から「仮面うつ病　masked depression」と呼ばれています。

仮面うつ病である事がわからないまま内科などで治療を続けていると、症状がますます悪化して、最悪の場合には、突然自殺をしてしまう様な不幸な事例もあります。

うつ病になる人は、まじめで責任感が強く、仕事も一生懸命にする人です。それだけに、うつ病である事が見逃され、長期間の休暇を余儀なくされて、仕事を失ったり、自殺という不幸な結果になってしまう事もあります。うつ病は、早期に発見して適切な治療を行えば必ず治る病気です。自殺という不幸な結末を防ぐ為にも仮面うつ病の正しい知識を理解し、日常の診療に役立てたいと考えます。

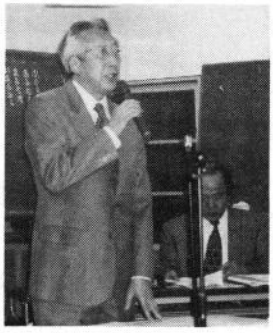
（文責：細谷純一郎）

平成12年度第2回定時総会開催

平成12年度第2回定時総会は、平成13年3月29日（木）午後7時30分より西多摩医師会館に於いて、小机総務部長の司会により下記次第で開催された。

1．開会宣言……総会議事規則第３条により会長が宣言す。……宮川会長
1．議長指名……同３条第２項により会長が川崎健一郎会員を選任し指名す。
1．議長登壇
1．副議長指名……今回は指名せず。
1．資格審査……川崎議長が会員総数 424名の内、議場出席者24名、委任状出席者 240名、計 264名で会員過半数（213名以上）で成立した旨報告す。

1．物故会員に対する黙祷…大塚　渉会員（平成12年10月18日）
鈴木　修会員（平成13年１月16日）
平岡克彦会員（平成13年２月３日）
に対して黙祷を行った。
1．開会挨拶……宮川会長
1．議事録署名人指名…議長が石井好明会員、大堀洋一会員を指名す。
1．議題
　1．審議事項
　　第１号議案　平成13年度事業計画案につき承認を求める件
　　第２号議案　平成13年度収支予算案につき承認を求める件
　　第３号議案　平成12年度収支補正予算案につき承認を求める件

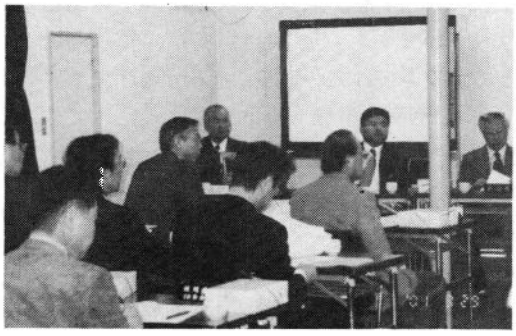


　　３議案とも賛成多数で原案通り承認された。

1．議長降壇
1．閉会宣言……総会議事規則第３条により会長が宣言す。……宮川会長
1．閉会挨拶……真鍋副会長

総会終了後、同会館にて医療連携事業説明会（ホームページ活用について）並びに懇親会が開催された。

（文責：森本　晉）



理事会報告 ★ Information

3月定例理事会　平成13年3月27日　西多摩医師会館

【1】 報告事項

1．都医地区医師会長協議会報告

Ⅰ．都医からの伝達事項

(1) 保険医療機関及び保険医の指導及び監査について

指導形態

1）集団指導（新規の保険医療機関又は診療報酬の改定時に行う）

2）集団的個別指導（現在は凍結中）

3）個別指導

(2) 社保・国保審査委員の推薦について

審査委員構成区分

診療担当者代表	1/3
保険者代表	1/3
学識経験者代表	1/3

(3) 被保険者証の一人１枚化について

一人１枚のカード化は４月１日より徐々に実施の予定である。

(4) 平成12年度第２回都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会について

1）日本医師会会員向けホームページ閲覧用アカウントの方式変更（一斉発行）について

2）ＯＲＣＡ（進化型オンラインレセプトコンピュータシステム）について

(5) 労災保険における二次健康診断等給付について

労災保険二次健診等給付診療所の指定を希望される診療所は、その申請書を都労働局あて提出して下さい。

(6) 介護保険について

1）主治医研修会について

各ブロック共出席者は少なかった。

2）介護療養型医療施設の指定申請の日程変更について

指定申請を年４回から、毎月ごとに変更する。都の指定病床数は３月１日現在3,828床で、整備目標10,065床の38％に留まっている。

(7)　東京都結核緊急医療ネットワークの運用について

結核感染症課連絡先　03-5320-4483（ダイヤルイン）

ＦＡＸ　03-5388-1432 又は 1433

H13. 3. 7から運用する。

(8)　平成13年度在宅難病患者訪問診療事業の実施について

平成12年度と同様、57地区 1,000件の訪問診療を行う。

(9)　日本医師会主催・世界保健デー市民公開シンポジウム「こころの健康ー21世紀の課題ー」の開催について

H13. 4. 7（土）午後１時より日本医師会館大講堂にて行う。

(10)　厚生科学審議会先端医療技術評価部会・生殖補助医療技術に関する専門委員会「精子・卵子・胚の提供等による生殖補助医療の在り方についての報告書」について

精子提供者は満55歳未満の成人で匿名とする。

卵子提供者は既に子のいる成人に限り満35歳未満とする。（匿名とする）

(11)　日本医師会認定産業医制度における研修会の開催について

Ⅱ．協議事項

なし。

Ⅲ．地区医師会からの報告

(1)　玉川医師会ホームページの開設について（玉川医師会）

Ⅳ．その他

(1)　介護保険ニュースについて

2．公立福生病院連合会報告

３月14日（水）１：30から羽村保健センターにて事務組合と懇談。

玉木、真鍋、波田野会員が出席、年２回運営協議会が開催される案が出された。協議会には、羽村より２名、福生より２名、瑞穂より１名の医師会員が加わる。

3．各部報告

（学　術　部）　４月11日（水）学術講演会。

４月18日（水）学術講演会。

4．各地区会よりの報告　（各地区長）

（青　梅）　３月16日（金）総会開催。予算案承認、休日診療所移転、生活習慣改善指導推進事業が４月から実施される。

（福　生）　4月9日（月）総会開催予定。
（羽　村）　3月21日（水）定時総会総会開催。来年度の事業計画。
佐藤タミエ会員から高齢のため公務を辞退したい旨の希望あり。
（あきる野）3月19日（日）例会開催。市より13年度事業計画が報告された。
3月21日（水）三師会懇親会開催。
（瑞　穂）　欠席。
（日の出）　3月24日（土）地区会開催。

5．その他

【2】　報告承認事項

1．入会会員について

なし。

2．平成13年度東京都日の出福祉園の産業医の推薦について ―― 承認 ――

留任。
宮　川　栄　次 会員（大聖病院）

3．平成13年度羽村市立保育園園医の推薦について ―― 承認 ――

留任。

市立東保育園	塩　沢　三　朗 会員	市立しらうめ保育園	東　　吉　男 会員
市立西保育園	関　谷　進一郎 会員	市立さくら保育園	山　川　淳　二 会員

4．平成13年度羽村市立栄小学校学校医の変更について ―― 承認 ――

小　崎　有　恒 会員（小崎クリニック）　変更前：佐　藤　タミエ 会員（佐藤医院）

【3】　協議事項

1．平成13年度第一回定時総会迄の日程について ―― 承認 ――

2．その他

医療機能連携推進事業（インターネット活用について） ―― 承認 ――
各地区に説明会・講演会を開催するための補助金10万円を配布。

平成12年度第2回定時総会について
総会後、インターネットについての説明会を開催。その後懇親会開催予定。

平成12年度生涯教育申告書の提出について
昨年通り。

【4】　その他

新聞報道「看護記録を改ざん」について意見が出された。

4月定例理事会　平成13年4月10日　西多摩医師会館

【1】　報告事項

1．都医地区医師介護担当理事連絡会報告 …… 石田理事

3月14日（水）日医会館大講堂にて開催。
介護認定審査会、合議体で疑義ある場合について。
介護専門員（ケアマネージャー）の資質の問題について。

2．公立福生病院連絡会報告 …… 玉木理事

前回理事会で報告済みであるが補足報告。
年2回程度開催予定の運営協議会に構成員として参加。

3．各部報告

なし。

4．各地区会よりの報告　（各地区長）

（青　梅）　なし。
（福　生）　4月9日（月）地区会、新入会員の入会問題について検討。
（羽　村）　4月17日（火）定時総会予定。
（あきる野）4月16日（月）定時総会予定。
（瑞　穂）　4月17日（火）定時総会予定。
（日の出）　4月20日（金）定時総会予定。

5．その他 …… 玉木理事

4月7日（土）西多摩接骨師会設立45周年が青梅市福祉センターで開催された。
特別功労賞として、西多摩医師会および高木直会員、松原貞一会員が表彰された。

【2】　報告承認事項

1．入会会員について　―― 承認 ――

2．平成13年度福生市学校医（眼科）の選任について（追認）　―― 承認 ――

福生市立福生第二小学校　馬　詰　良比古 会員
福生市立福生第三小学校　馬　詰　良比古 会員
福生市立福生第六小学校　馬　詰　良比古 会員
福生市立福生第一中学校　馬　詰　良比古 会員
福生市立福生第二中学校　馬　詰　良比古 会員

3．平成13年度日の出町立小中学校医の推薦について ―― 承認 ――

大久野小学校　進　藤　　晃 会員　　大久野中学校　蓼　沼　　翼 会員
平　井小学校　湯　川　文　朗 会員　　平　井中学校　神　尾　重　則 会員
本　宿小学校　篠　原　秀　隆 会員

4．平成13年度日の出町耳鼻咽喉科及び眼科検診の承諾について ―― 承認 ――

耳鼻咽喉科　清　水　佐和道 会員（清水耳鼻咽喉科クリニック）
眼　科　　野　口　清　美 会員（野口眼科医院）

5．東京都医師会医道審議委員の推薦について ―― 承認 ――

西　村　邦　康 会員（西村医院）
任期：平成13年４月１日～平成15年３月31日

【3】 協議事項

1．平成12年度事業報告案について

2．社会福祉活動について

西多摩医師会として地域の社会福祉活動に積極的に貢献していきたい。
今後も、継続協議事項とする。

3．その他

什器備品の廃棄処分について

会員通知

○会報
○学術講演会（4／18）
○告示（都医・会長副会長・理事 他）
○平成12年度日医生涯教育制度終了に当たっての「生涯教育申告書」ご提出のお願い
○平成13年度日医認定健康スポーツ医制度実施に伴う各種申請の受付期間等について
○平成13年度産業医との交流会の開催について
○リウマチ・膠原病フォーラム21
○「非喫煙者と未成年の健康をたばこから守る法律」の制定を！　署名のお願い
○「西多摩保健医療圏保健福祉ネットワークの現状」の送付について
○フェナセチン含有医薬品の濫用対策として供給停止のご案内

医師会の動き

医療機関数	194	病　院	29
		医院・診療所	165
会　員　数	422	A会員	187
		B会員	235

会議

4月10日　定例理事会
20日　在宅難病調整委員会
〃　会報編集委員会
24日　定例理事会
27日　経理部会
〃　在宅難病訪問診療

講演会・その他

4月9日　整備会
11日　学術講演会
演題：「仮面うつ病－隠された心の危機－」
講師：国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 心療内科部長 山岡昌之先生
18日　学術講演会
1. 演題：高血圧と腎炎
講師：青梅市立総合病院 腎臓内科部長 栗山廉二郎先生
2. 演題：ディオバンの用量依存的な効果について
講師：池谷医院　院長 池谷敏郎先生

役員出張

4月1日　福生病院開設
7日　西多摩接骨師会45周年記念式典
21日　青梅市三師会

【管理者変更】

(医社)和風会　老人保健施設 メディケア　梅の園
（新）川村　和民
（旧）今井　知一

(医社)和風会　梅園病院附属根ヶ布診療所
（新）今井　知一
（旧）川村　和民

【廃業】

医院名　多満ビル診療所
氏　名　栗本　義直

医院名　倉重眼科
氏　名　倉重　二郎

表紙のことば

『チューリップ』

羽村市内のチューリップ畑で撮影した写真です。気に入りの 中望遠のソフトレンズに望遠の補助レンズを付けて花群を圧縮。絞りを開放にして背景を潰し、露出を若干明るめに補正。更に半逆光のなかレンズフードを外したところ鏡胴内で内面反射が生じていわゆるゴーストが出現。変わった雰囲気の写真になりました。

田村啓彦

あとがき

今年はヘビ年。随分長い間、忘れていたことを思い出しました。蛇は集団では生活しないと聞いていましたが、34年前の羅臼岳登山の時、ウトロから登ったのですが、前夜泊った木村小屋を出て間もなく、沢山の蛇が集まって細い山道を占領していました。こんな光景は見たこともありません。ウッカリまたいで一斉にとびかかられたら大変と、原始的な恐怖にとらわれ、藪の中を遥かに迂回せざるを得ませんでした。

山頂付近は丈の低い白いシャクナゲの花盛り、隣りの知床硫黄山の残雪はキレイで、素晴らしい山歩きでした。帰り道、現場には、どこへ行ってしまったのか、1匹も残っていませんでした。

石井好明

お知らせ

事務局より お知らせ

平成13年6月（5月診療分）の

保険請求書類提出

6月8日（金）

―― 正午迄です ――

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第二水曜日午後二時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

◎相談日　**5月は9日（水）**
6月は13日（水）の予定です。
◎場　所　西多摩医師会館和室
◎内　容　医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相談料　無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人　西多摩医師会　平成13年5月1日発行

会長　宮川栄次　〒198-0044　東京都青梅市西分3-103　TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会　森本　晉
石井好明　神尾重則　片平潤一　込田茂夫
清水佐和道　高水松夫　田村啓彦　細谷純一郎

印刷所　マスダ印刷　TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

健康が 21世紀の扉を開く

命の輝きを見つめ続けて‥‥
㈱武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・Sサービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309－8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659